

めざせ!!

メディカルエグゼクティブ

監修：愛知医科大学内科学講座肝胆膵内科学准教授(特任) 角田 圭雄

第7回

クリティカルパスのより良い活用のために

CASE



内科で指導医を務めるA先生は、部下の若手医師が、「クリティカルパスを導入している患者は、やる事が決まっていて安心だ」と話しているのを耳にして違和感を覚えました。そして「確かにクリティカルパスは、多職種連携による業務の質や効率の向上に寄与できる。しかし、若手医師がパス導入患者の診療をルーティンワークのようにとらえてしまうと、医師としての成長が阻害され、診療スキルが上達しないのではないかと心配になりました。A先生は、パスを有効に活用しつつ、若手医師の成長を促していくには、どうすれば良いのかと考え始めました。

常にバリエーションの発生に留意を

「クリティカルパス」(以下、パス)は、もともとは製造業の業務を効率化・標準化し、作業工程を分析・管理する手法として開発されました。その語源をたどると、「プロジェクトの全工程を最短時間で完了するための作業経路」を意味する言葉であることがわかります。

しかし、同じ「パス」を用いるにも、製造業と医療を比較すると、製造業が一定の均質性が担保された「モノ」や「製品」を対象とするのに対し、医療はきわめて多様性に富んだ「患者」すなわち「ヒト」を対象としている点が圧倒的に異なります。したがって、医療現場でパスを運用するにあたっては、患者一人ひとりの多様性を見きわめて、パスで掲げた目標どおりのアウトカムが得られない患者の例(バリエーション)に常に留意し、分析し

ながら対応することが重要です。パスのとおりによりケアを進めることが、パス導入の目的ではない点を意識しなければなりません。

目先の課題だけにとらわれる罠

前述した医療におけるパスの意義を踏まえると、A先生の部下の若手医師のように「医師は、パスに沿ってルーティンワークのように仕事を進めれば良い」ととらえることは、「パスの役割を理解してパスを使う」のではなく、「ただパスにしたがっているだけで、パスに使われている」状態と言えます。こうした「いかにパスのとおりによりケアを進めるのか」という目先の課題を効率的にクリアする点のみにとらわれ、「個々の患者をどうケアしていくのか」、「バリエーションが発生したらどうすべきか」といった中長期的な戦略を立案できない状況に陥ることを、ノーベル経済学賞を受賞したハーバード・サイモンは「計画

の「グレンシャムの法則」として提唱しました。

医師が、診療をパスに沿ったルーティンワークと見なしてしまえば、若手医師の成長を阻害し、やがては、医師の存在そのものを埋没させる「コモディティ化」(⇒STUDY②)につながってしまうのではないのでしょうか。

多職種協働でパスを育てる

パス運用上の注意点を踏まえつつ、パスをうまく活用するには、多職種協働での取り組みが不可欠です。まず、パスを最初に立ち上げる際、多職種が集まってパスをつくり込むことで、各職種の専門的な視点から見た多面的な意見が得られ、見落としの少ないパスをつくれます。さらにパスが正しく機能しているのかを多職種で検討し、問題があったら報告するプロセスを設けることで、パスの精度を向上させられます。

多職種の指摘やバリエーションをしっかりと評価してパスの改善に反映していくとともに、一人ひとり違う患者に対し、もっとも適切な医療の提供を考えることこそ、医師の務めだと言えるでしょう。

NEXT STEP

A先生は、若手医師に対し、パスを有効に活用してケアを進めるとともに、バリエーションが生じた患者には、特に注意を払うように指示しました。加えて、バリエーション事例を多職種で検討し、パスの内容を見直すカンファレンスを定期的開催するようにしました。

結果、若手医師は、パスが目標としているアウトカムに達しない患者に着目するようになりました。そして、患者の状態を正しく判断することと、パスをより良く活用すべく、バリエーションに対する注意を多職種に働きかけることも意識するようになっていきました。

STUDY①

クリティカルパスの特徴

- 治療目標をあらかじめ設定することにより、達成に向けて最適な治療が行える
- 医療ケアが標準化される
- 医療内容の比較ができるようになる
- チーム医療の向上につながる
- 在院日数が短縮し、病床の効率的運用が可能になる
- ミスが減るといったリスクマネジメント上の効果が期待できる
- インフォームド・コンセントの際、患者に治療の方向性を示しやすくなる
- 運用にあたり、発生したバリエーションを分析して、クリティカルパスの内容を改定するPDCAサイクルをまわす必要がある

STUDY②

コモディティ化

「コモディティ化」とは、機能や品質の差がなくなり、商品価値が汎用化されること。「誰がやっても同じ結果」や「どこの会社がつくった製品でも性能が変わらない」状況であり、差異をもたらすのは価格のみとなる。医師においては、たとえば、パスにしたがって診療を進めるだけであれば、「必ずしも医師でなくてもできる仕事」と見なされ、医師の存在自体がコモディティ化に陥る懸念がある。

人材のコモディティ化によってAIに代替される仕事

なくなる仕事	増える仕事
タクシー運転手	オペレーター
大学教授	小学校教員
医師	看護師、臨床心理士
会計士	ソフトウェア開発者
パイロット	CA

RECOMMENDED BOOK

- 『僕は君たちに武器を配りたい』
著：瀧本哲史／発行：講談社
- 『MBA的医療経営』
著：角田圭雄／発行：幻冬舎